

豊郷町総合開発審議会

第 2 回資料

- I 基礎調査について
 - i 豊郷町の地域概況
 - ii まちをとりまく動き
 - iii 住民ニーズの把握
- II 第 4 次計画の検証（別紙）



2018年8月30日

豊郷町

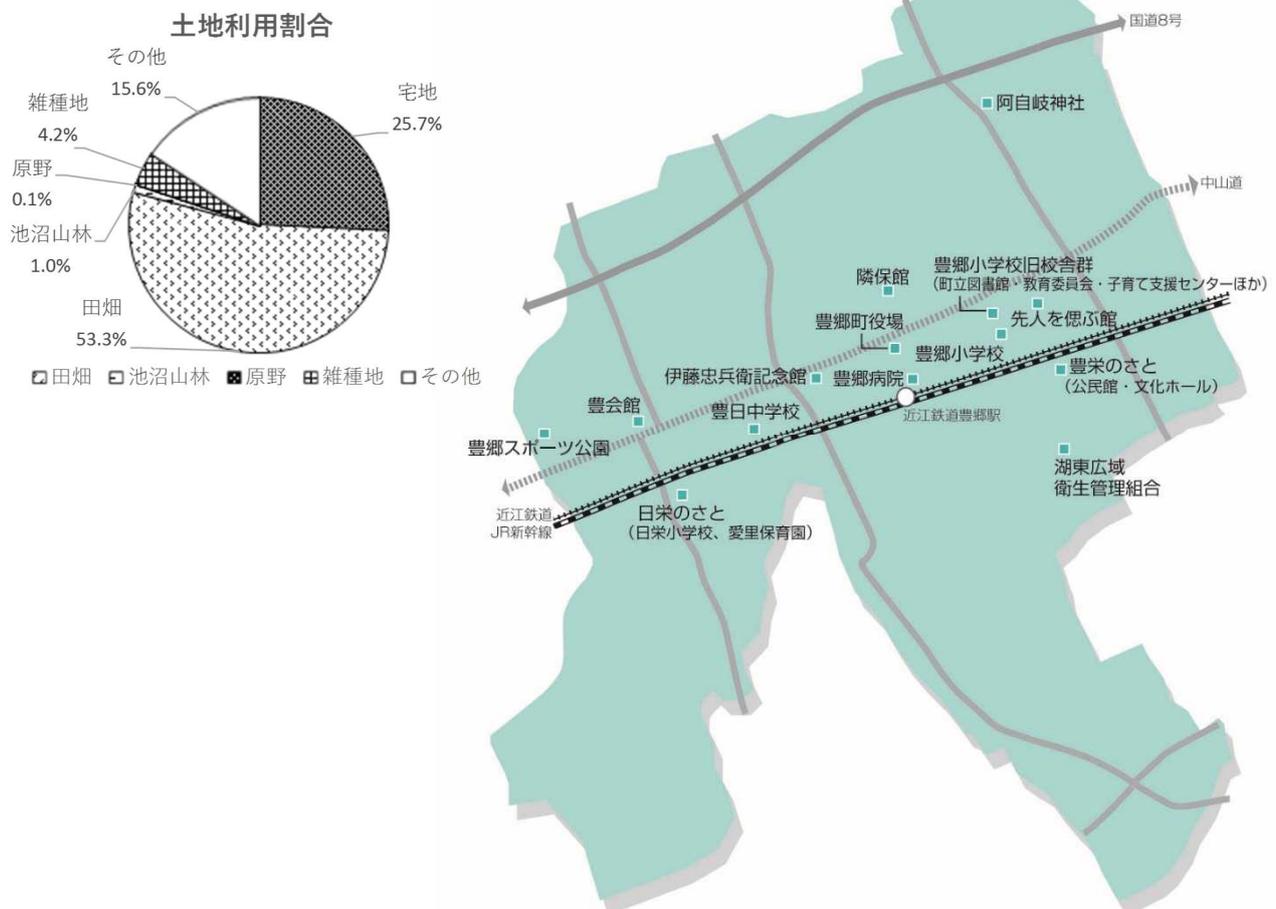
i 豊郷町の地域概況

1 まちの概要

本町は、滋賀県東部にあって彦根市・甲良町・愛荘町に隣接し、面積 7.80km²、東西 5.7km、南北 4.9km というまとまりのよい小さなまちです。ほぼ全域が平坦地で、田畑が 5 割強、宅地が 2 割強を占めています。中山道の高宮宿と愛知川宿の間であって、まちの中央部を街道沿いの町並みが広がり、その周囲に農村集落が広がっています。

歴史的には、日本最古の庭園のひとつといわれる阿自岐庭園（阿自岐神社）にみられるように古くから開けた土地で、中世に創建された寺院が今も残されています。戦国時代にはまちも戦火に焼かれましたが、その中でも持ち前の強く明るい気風を発揮し、華やかで陽気な唄と踊りの江州音頭を生み出しました。近世には、近江商人が活躍し全国を舞台に商売を広げていきました。豊郷町には、このような歴史を偲ばせる文化財が多く残されています。

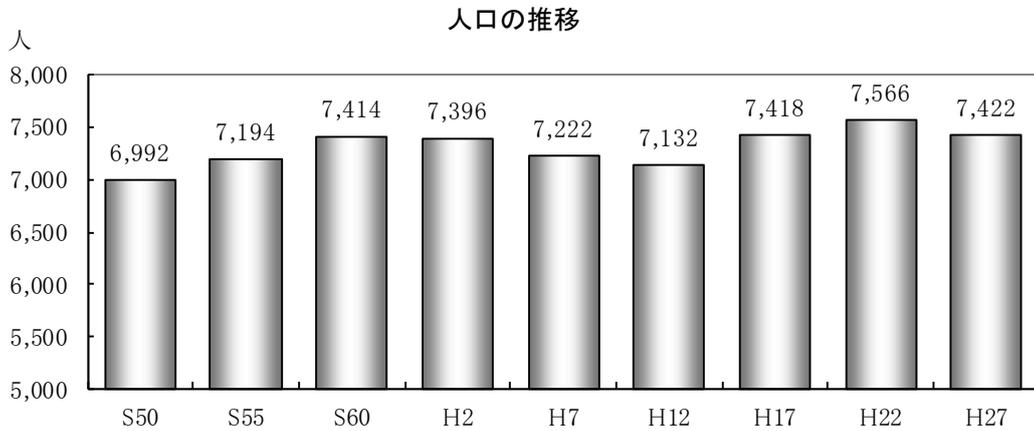
近年では国道 8 号沿線などに商工業地が形成され、近江鉄道豊郷駅に加えて J R 稲枝駅や河瀬駅も近いという利便性や上下水道などのインフラ整備が整っていることなどから、宅地造成がさかんに行われています。



2 まちの人口と今後の予測

(1) 人口の推移

本町の人口は昭和 60 年まで増加傾向にありましたが、その後平成 12 年まで減少が続きました。平成 17 年から再び増加傾向になった後、平成 27 年は減少し 7,422 人となっています。

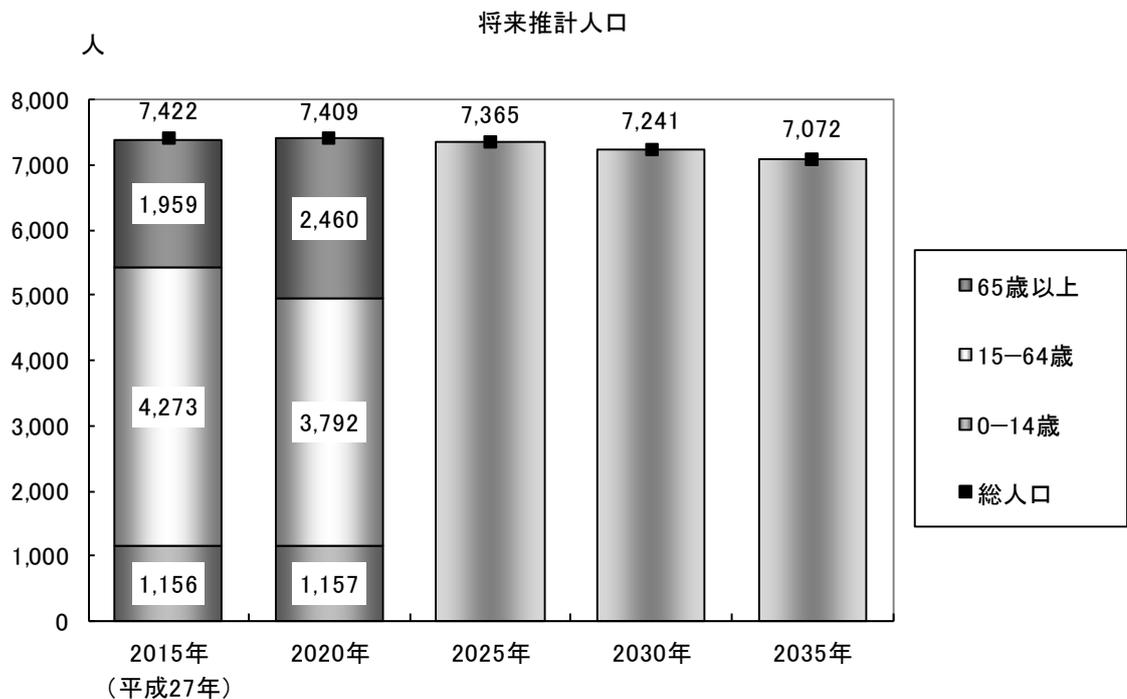


資料:「各年国勢調査結果」(総務省統計局)

(2) 将来人口の推計

将来人口をコーホート要因法*で推計すると、次のとおり緩やかに減少し、2035 年には約 7,000 人になると予測されます。

年齢構成については、2020 年には 0~14 歳の人口は横ばいですが、15~64 歳の生産年齢人口が減少し、65 歳以上の人口は大きく増加し総人口の 33%に達するものと予測されます。



※2015年(平成27年)は国勢調査の実績値、2020年以降は推計値。2025年以降は総人口の推計値のみ

※2015年(平成27年)の総人口については年齢不詳の34人を含む

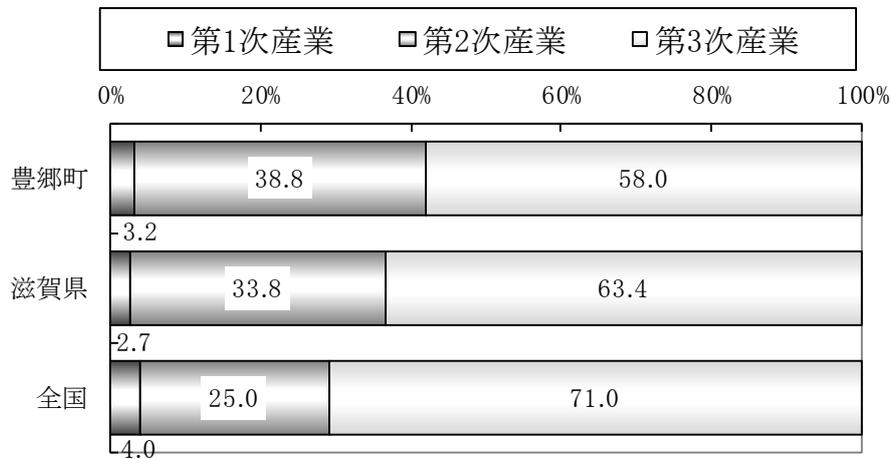
* コーホート要因法: 市区町村別の男女、年齢5歳階級別結果を用いて将来人口を推計する方法。ここでは、2000年(平成12年)及び2005年(平成17年)国勢調査を用いて推計している。

3 まちの産業

本町の産業構造は、第3次産業[※]の就業人口が最も多く58.0%を占めています。また、全国と比べて第2次産業の就業人口が多い滋賀県の中にあっても、本町における第2次産業の就業人口は38.8%と多いのが特徴です。

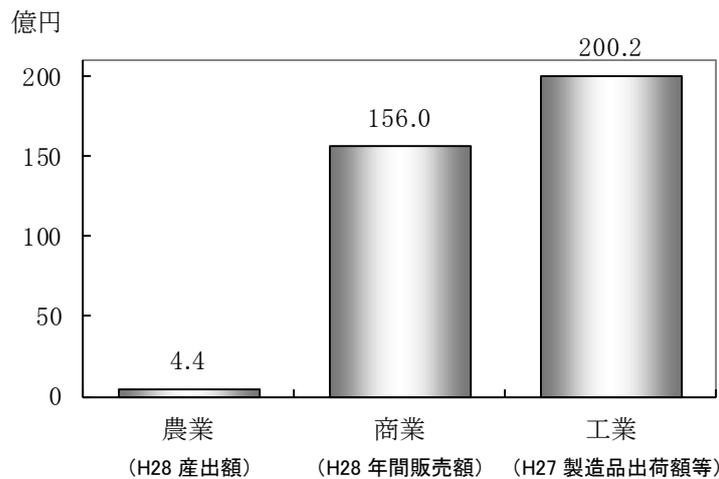
産業別の生産額をみると、工業の製造品出荷額等は近年伸び悩んでいましたが、平成27年には200.2億円と増加しています。また、商業の年間販売額は平成28年に156.0億円で、10年前より増加しています。農業の産出額では減少が続いていましたが、平成28年には4.4億円と微増しています。

産業別就業人口の割合



資料:「平成27年度国勢調査結果」(総務省統計局)

産業別生産額の状況



資料:平成28年市町村別農業産出額(推計)、平成28年経済センサス-活動調査

[※] 第1次産業:農林水産業、第2次産業:工業、建設業など、第3次産業:商業、サービス業など。

4 第4次計画策定後のまちの歩み

平成21年 (2009)	3月	総合計画(第4次)「リスタートプラン」策定 豊郷小学校旧校舎群耐震補強および大規模改修工事完成
	5月	豊郷小学校旧校舎群竣工
	10月	湖東定住自立圏(1市4町)形成協定締結
平成23年 (2011)	6月	いきがい協働センター竣工
	11月	町制施行40周年記念式典
平成24年 (2012)	3月	豊郷町スポーツ公園内にグラウンドゴルフ場を開設
	10月	浦安市・室戸市との災害時相互応援協定締結
	12月	豊郷幼稚園増築工事完成
平成25年 (2013)	3月	豊郷小学校旧校舎群 登録有形文化財に登録
	4月	豊郷町子育て応援医療費助成の創設により小学生および中学生の医療費無料化実施
	9月	豊栄のさと大規模修繕工事完成
平成26年 (2014)	3月	豊日中学校ランチルーム完成
	3月	とよさとプリンが平成25年度優良ふるさと食品中央コンクール国産農林産品利用部門 農林水産省食料産業局長賞受賞
	4月	地籍調査事業開始
	10月	豊郷町子育て応援医療費助成の拡充により高校生世代まで医療費無料化実施(県内初)
	12月	豊郷町民体育館改修工事完成
平成27年 (2015)	2月	豊郷小学校旧校舎群で戦前の16ミリフィルムが見つかり、復元とデジタル化に成功
	3月	豊郷スポーツ公園法面(体育館側)改修工事完成
	4月	豊日中学校学校給食開始
	8月	豊日中学校トイレ改修工事完了
	11月	日栄小学校プール解体工事
	12月	豊郷武道館屋根他改修工事完成
平成28年 (2016)	8月	日栄小学校校舎増改築工事完成
	11月	町制施行45周年旧村合併60周年記念式典
平成29年 (2017)	3月	北部・南部簡易水道事業廃止 豊郷町上水道事業創設(公営企業法適用)
	4月	豊郷町防災行政無線デジタル化
	4月	とよさとプリンが第3回介護食品(スマイルケア食)コンクール農林水産大臣賞受賞
平成30年 (2018)	4月	小中学校給食費を無償化(中学校は県内初)

ii まちをとりまく動き

豊郷町の将来展望やまちづくりの課題に関わる社会の潮流について、主要な動向をあげます。

(1) 人権の尊重

21世紀は「人権の世紀」ともいわれます。しかし、依然としてあとを絶たない家庭内暴力や児童虐待、高齢者虐待とともに、部落差別をはじめ、性や年齢、国籍、障がいの有無による差別など、さまざまな人権侵害に関する問題はいまだに解決されていません。本町においても、引き続き「人権の尊重」を重要な課題として位置づけ、あらゆる施策の基本に据える必要があります。

(2) 少子高齢化・人口減少社会の到来

わが国の人口は、平成20年(2008年)の約1億2,800万人を頂点として減少に転じ、これまで経験したことのない人口減少社会を迎えました。合計特殊出生率は平成26年(2014年)には1.42まで回復しているものの、人口置換水準といわれる2.07にはまだ開きがあり、今後、出生率が回復したとしても、数十年間は総人口の減少が避けられない見通しです。また、2025年にはいわゆる団塊世代すべてが75歳以上となるほか、2040年にはいわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上になるなど、高齢化は今後さらに進展することが見込まれており、高齢者の急激な増加に伴う医療・介護需要の増大への対応が課題となっています。

本町の総人口は昭和60年まで増加傾向にありましたが、その後平成12年まで減少が続きました。平成17年から再び増加傾向になった後、平成27年は減少し7,422人となっています。また、2008年から2012年にかけての本町の合計特殊出生率は1.76で県内市町第3位の水準となっています。社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の推計によると、本町でも少子高齢化・人口減少が進み、2040年には6,989人、65歳以上の人口割合は35.3%に達すると予測されています。

今後、このような少子高齢化の進行に対応し、出生率の維持・向上、人口の流出抑制と転入の維持を図るとともに、高齢者をはじめあらゆる住民が地域で安心して暮らせる地域包括ケアシステムの深化・推進を図る必要があります。

(3) グローバル社会の変化

① 変化する国際社会の中での競争と交流の活性化

中国やASEAN諸国、インドの経済発展をはじめ、世界規模的(グローバル)な経済の進展に伴って、産業の国際競争の激化が進んでいます。アジアにおける貿易構造を見ても、我が国の存在感が低下し、中国と各国、各地域との関係が強まっています。一方、人材や文化の国際的交流もいっそう活発化しています。

本町においても、今後広い視野に立ちながら、互いの文化を認め合うことによって、多文化共生の考え方や相互理解を深めるとともに、インバウンド観光の促進などグローバル社会における地域の活性化を図ることが必要です。

② 複雑化・多様化する環境問題への対応

人類社会の急激な成長を支えてきた化石資源を利用したエネルギー消費によって、地球温暖化に伴う気候変動が進んでいます。気候変動の進行や良好な自然環境の喪失による生物多様性の損失等地球環境問題は大きな課題であり、自然環境と調和した持続可能な経済社会システムを構築することが必要です。また、将来にわたって食料、水、エネルギー等の需要を安定的に満たすため、食料自給率の向上、健全な水循環の維持・回復、省エネルギーの推進等が課題となっています。

本町においても、今後持続可能な発展へ向けて、循環型社会の構築をめざす必要があります。

(4) 暮らしを取り巻く変化

① 巨大災害の切迫、防災・減災対策の強化

本町は災害の少ないまちですが、全国の動向をみると、平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災、平成23年(2011年)の東日本大震災等の地震、津波等により甚大な被害が発生し、今後、首都直下地震及び南海トラフ地震の発生が30年以内に70%程度と高い確率で予測されています。また、雨の降り方は局地化、集中化しており、風水害、土砂災害が頻発・激甚化することが懸念されています。

本町においても、ハード対策・ソフト対策の適切な組合せによる防災・減災対策を進め、災害に備える必要があります。

② 広域ネットワークの形成による人やものの流れの変化

リニア中央新幹線の東京と名古屋間が2027年に、名古屋と大阪間が2045年に、また、北陸新幹線の敦賀と大阪間が2045年頃に開業することが予定されています。また、新名神高速道路の開通(大津と高槻間が2023年度に開通する予定)により、広域高速道路網の利便性が向上すると期待されています。

本町のまちづくりにおいても、人やものの流れの大きな変化を視野に入れつつ、地域の活性化を図る必要があります。

③ ICTの進化等技術革新の進展

近年のICTの劇的な進化は国民の生活や企業活動、経済社会に大きな変化をもたらしつつあり、そのスピードは近年加速度的に増してきています。

ICTを活用した場所にとらわれない柔軟な働き方であるテレワーク、遠隔教育、遠隔医療や在宅医療・在宅検診等の普及、ロボット技術を応用したロボットスーツ等の開発、水素の利活用の進展など、暮らしに大きな影響を与える技術革新の進展が期待されています。

本町のまちづくりにおいても、このような技術革新の進展を視野に入れつつ、地域の活性化を図る必要があります。

(5) まちづくりを取り巻く変化

① 地方分権改革の進展

これまでの地方分権改革により、財源の移譲が不十分ではあるものの、機関委任事務制度の廃止により、地方自治体の自主性が強化され、自己決定、自己責任の下に、地域の実態に合った行政が展開されるようになってきました。本格的な人口減少社会が到来し、少子高齢化が進行する中、住民生活

に最も身近な基礎自治体である市町村においては、自主性・自立性を基本的な視点としながら、地域住民のニーズに迅速・的確に応じ、良好なコミュニティを形成していくことで、地域の魅力や価値を高めていくことが必要となっています。

② 住民参加と協働への意識の高まり

全国的に様々な分野において、地域組織やボランティア、NPOなど多様な主体が自主的・主体的にまちの課題解決に取り組もうとする動きが定着しつつあります。

本町においても引き続き、まちづくりの主体であり主役である住民がより積極的にまちづくりに参画し、住民、団体、事業所、行政が、互いのパートナーシップによって、自分たちのまちを自分たちの手で、より住みよいまちにしていくため、協働のまちづくりを進めることが必要です。

③ 行財政改革の推進

国・地方ともに厳しい財政状況にある中で、行財政改革の推進が求められています。

公共投資については引き続き費用対効果に関する評価を行い改革を推進するとともに、経常的な業務についても効果的・効率的なものになるよう絶えず見直し・改善を進め、住民に対する説明責任に応えていく必要があります。そして、より効果的で効率的な行政運営をめざして、職員の政策形成能力の向上、行政システムの改善、行政組織の改革に取り組む必要があります。

iii 住民ニーズの把握

～ 豊郷町まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン・総合戦略」および
豊郷町の地域福祉に関するアンケート調査 ～

(1) 調査概要

1) 調査の目的

【まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン・総合戦略」に関するアンケート調査(※以下、総合戦略)】

将来の町の人口を展望する「人口ビジョン」と、地域の実情に応じた今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策内容をまとめた「総合戦略」策定にあたり、基礎資料とするために行いました。

【地域福祉に関するアンケート調査(※以下、地域福祉)】

誰もが住み慣れた地域で安心して、いきいきと暮らすことをめざす「豊郷町地域福祉計画」の策定において、地域福祉に関する意見やニーズを把握し計画策定等の基礎資料とするためアンケート調査を実施しました。

2) 調査概要

【調査地域】

ともに豊郷町全域

【調査対象】

- 総合戦略：18歳以上の町内居住者から2,500人を無作為抽出
- 地域福祉：18歳以上の町内居住者から1,000人を無作為抽出

【調査方法】

ともに郵送による配布・回収

【調査期間】

- 総合戦略：平成27年(2015年)6月
- 地域福祉：平成29年(2017年)11月24日から平成29年12月11日

【回収結果】

	配布数	回収数	回収率
総合戦略	2,500 票	844 票	33.8%
地域福祉	1,000 票	381 票	38.1%

3) 報告書の見方

この報告書の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、全て小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記します。このため、全ての割合の合計が 100%にならないことがあります。また、複数回答の設問では、全ての割合の合計が 100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表します。
- 図表では、コンピュータ入力の都合上、回答の選択肢の文言を短縮している場合があります。

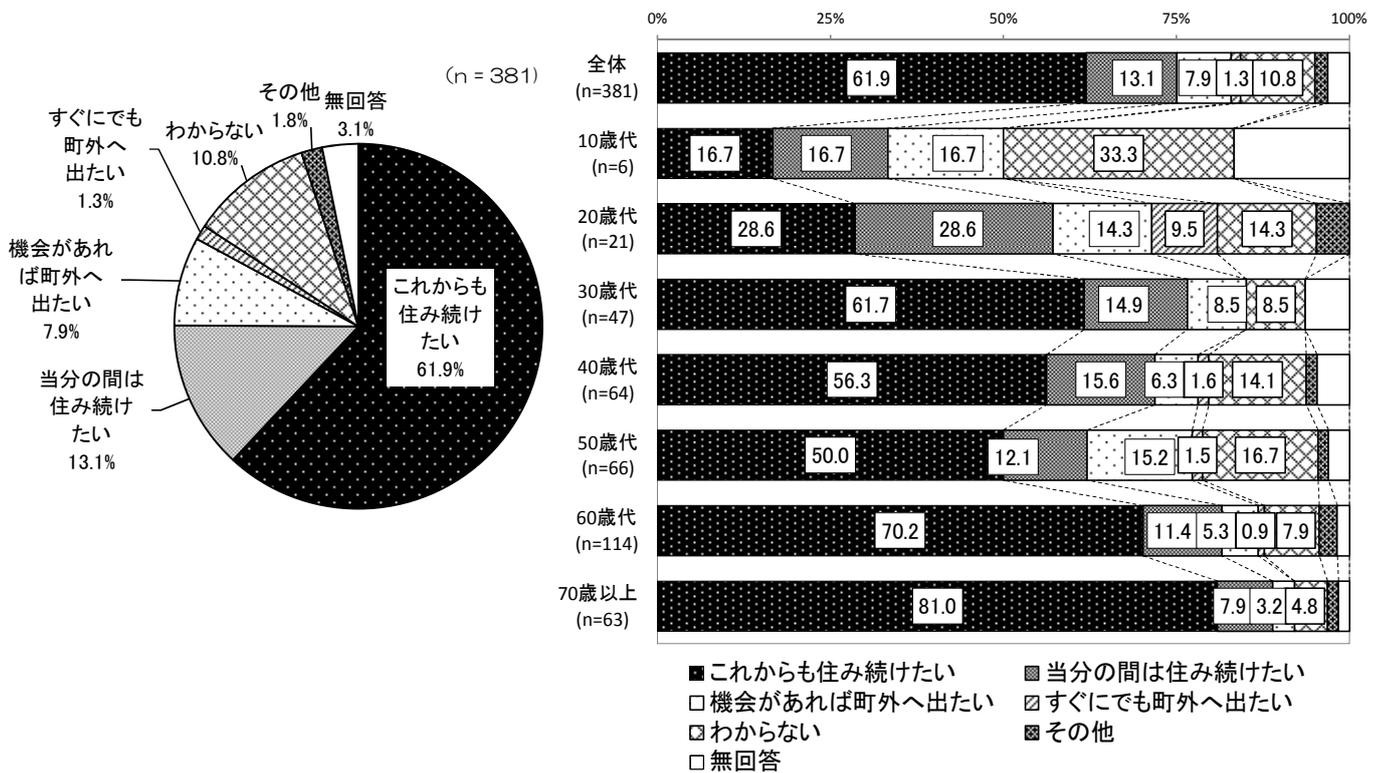
4) 調査結果のまとめ

① 定住意向（地域福祉・H29）

あなたはこれからも豊郷町に住み続けたいと思いますか。（1つだけ選択）

全体では、最も回答率が高かったのは、「これからも住み続けたい」61.9%で過半数を占めており、「当分の間は住み続けたい」13.1%と合すると75%が定住志向であることがわかります。一方、「機会があれば町外へ出たい」は7.9%、「すぐにでも町外へ出たい」は1.3%となっています。

年齢別にみると、他の年代に比べて10歳代では6人中3人が、20歳代では21人中5人が、50歳代では66人中11人が移住志向とやや高く、この年代においては「機会があれば町外へ出たい」「すぐにでも町外へ出たい」の合計が15%以上となっています。



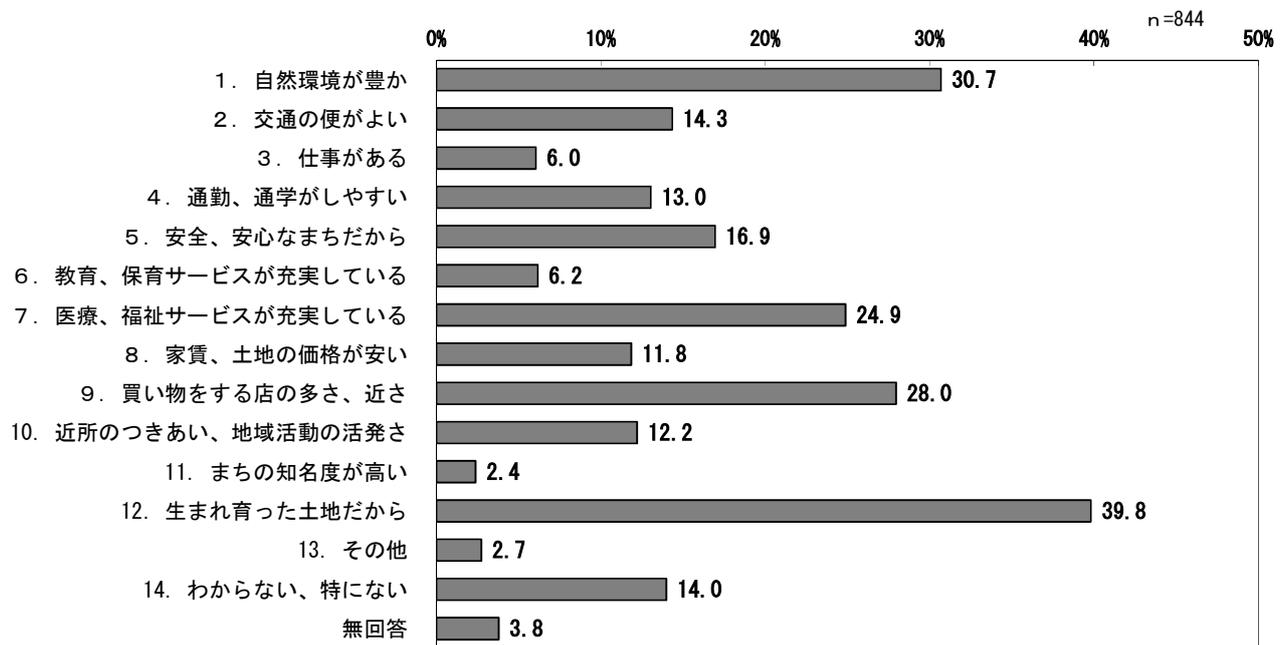
資料 I

② まちの暮らしやすさについて (総合戦略・H27)

豊郷町が暮らしやすいと感じる点はどういった点ですか。(あてはまるものすべてに○)

「生まれ育った土地だから」が39.8%で最も多く、次いで「自然環境が豊か」が30.7%、「買い物をする店の多さ、近さ」が28.0%、「医療、福祉サービスが充実している」が24.9%、「安全、安心なまちだから」が16.9%となっています。

20代後半で「教育・保育サービス」、70歳以上で「医療・福祉」、20代前半で「自然環境」「近所づきあい、地域活動」「生まれ育った土地」を挙げる率が高くなっています。



	1. 自然環境が豊か	2. 交通の便がよい	3. 仕事がある	4. 通勤、通学がしやすい	5. 安全、安心なまちだから	6. 教育、保育サービスが充実している	7. 医療、福祉サービスが充実している	8. 家賃、土地の価格が安い	9. 買い物をする店の多さ、近さ	10. 近所のつきあい、地域活動の活発さ	11. まちの知名度が高い	12. 生まれ育った土地だから	13. その他	14. わからない、特にない	無回答
全体	30.7	14.3	6.0	13.0	16.9	6.2	24.9	11.8	28.0	12.2	2.4	39.8	2.7	14.0	3.8
問1 性別															
1. 男性	28.9	17.5	6.2	13.2	17.2	4.2	21.9	12.7	27.7	14.0	3.0	55.1	2.2	13.5	1.5
2. 女性	33.6	12.1	6.1	13.5	17.0	8.3	28.8	11.1	29.3	10.9	1.9	27.0	3.3	14.9	2.1
問2 年齢															
1. 19歳以下	28.6	28.6	0.0	28.6	21.4	0.0	14.3	14.3	42.9	21.4	0.0	57.1	7.1	21.4	0.0
2. 20歳～24歳	44.4	4.4	0.0	2.2	6.7	2.2	8.9	6.7	11.1	24.4	4.4	64.4	2.2	15.6	4.4
3. 25歳～29歳	30.0	12.0	4.0	12.0	12.0	14.0	20.0	26.0	18.0	12.0	0.0	46.0	4.0	16.0	2.0
4. 30歳～34歳	25.0	13.2	2.6	13.2	14.5	13.2	34.2	13.2	22.4	7.9	2.6	38.2	7.9	6.6	1.3
5. 35歳～39歳	15.1	3.8	1.9	18.9	5.7	7.5	28.3	17.0	30.2	7.5	1.9	34.0	1.9	17.0	0.0
6. 40歳～44歳	29.3	7.3	6.1	17.1	15.9	12.2	30.5	14.6	22.0	9.8	2.4	31.7	4.9	17.1	1.2
7. 45歳～49歳	15.7	7.1	5.7	17.1	10.0	7.1	24.3	22.9	22.9	4.3	0.0	42.9	0.0	18.6	2.9
8. 50歳～54歳	29.3	10.3	6.9	15.5	15.5	5.2	20.7	10.3	32.8	8.6	1.7	32.8	0.0	19.0	1.7
9. 55歳～59歳	36.3	18.6	8.8	17.7	18.6	0.0	22.1	11.5	28.3	15.0	1.8	44.2	3.5	8.0	2.7
10. 60歳～64歳	34.8	19.6	12.0	10.9	20.7	3.3	22.8	9.8	31.5	8.7	3.3	37.0	3.3	16.3	1.1
11. 65歳～69歳	42.9	19.8	5.5	8.8	15.4	2.2	23.1	3.3	36.3	19.8	4.4	39.6	0.0	17.6	2.2
12. 70歳以上	34.5	27.4	8.3	7.1	39.3	7.1	36.9	4.8	42.9	16.7	3.6	40.5	1.2	9.5	3.6

●主な「その他」記入: 自然災害がない(3)／のんびりしていて落ち着いた雰囲気／高速道路が近い／国道が近いわりに静かで空気がきれい／地区の親近者以外の方が転入されていない所がよい／ほどほどの田舎でありながらも住むのにほとんど苦労する点がない／子どもの医療費タダの期間が他の町より長め／金融機関が多い／家や土地がある／交通マナーが悪くはない／など

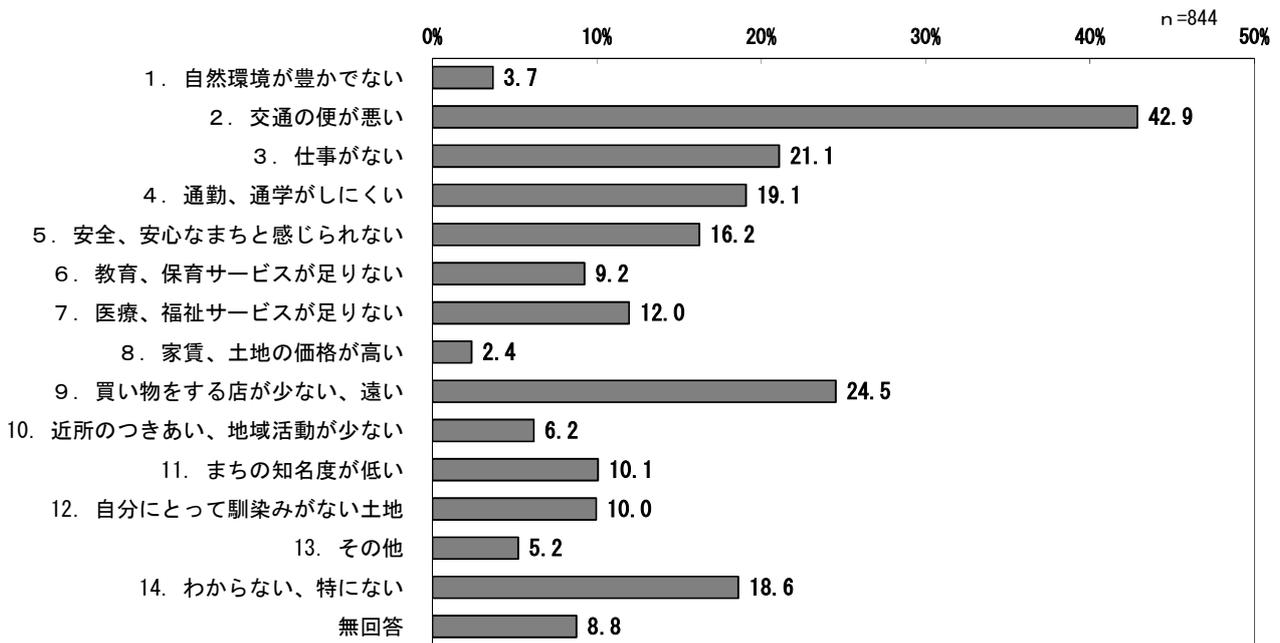
資料 I

豊郷町が暮らしにくいと感じる点はどういった点ですか。 (あてはまるものすべてに○)

「交通の便が悪い」が42.9%で最も多く、次いで「買い物をする店が少ない、遠い」が24.5%、「仕事がない」が21.1%、「通勤、通学がしにくい」が19.1%となっています。

30代前半で「通勤・通学の不便」「安心・安全と感じられない」「教育、保育サービスの不足」、40代後半で「自然環境」「交通の便」「医療、福祉の不足」「家賃、土地の価格」を挙げる率が高くなっています。

また、19歳以下では「仕事がない」、20代前半では「買い物をする店が少ない、遠い」を挙げる率が高くなっています。



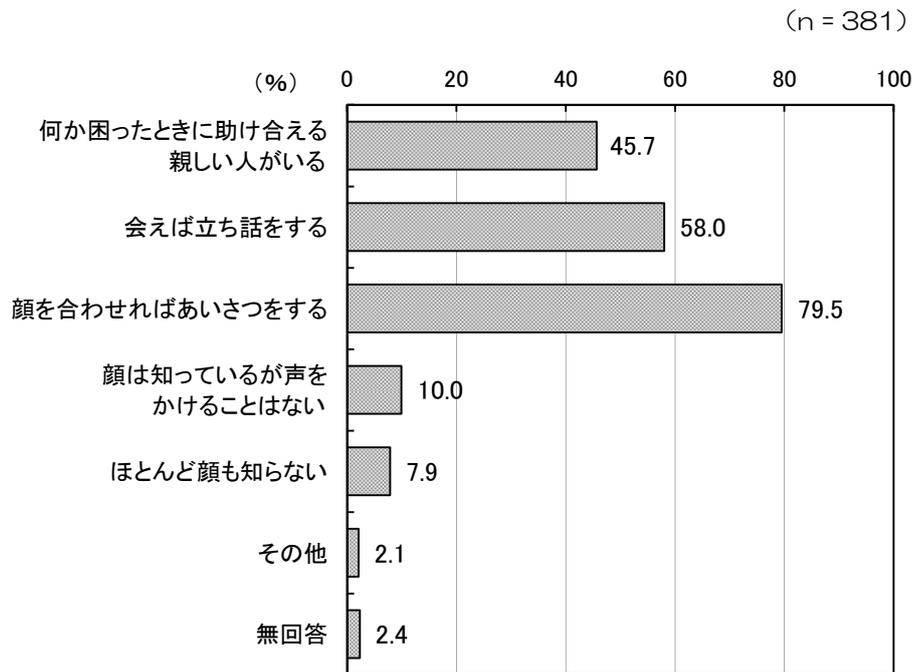
		1. 自然環境が豊かでない	2. 交通の便が悪い	3. 仕事がない	4. 通勤、通学がしにくい	5. 安全、安心なまちと感じられない	6. 教育、保育サービスが足りない	7. 医療、福祉サービスが足りない	8. 家賃、土地の価格が高い	9. 買い物をする店が少ない、遠い	10. 近所のつきあい、地域活動が少ない	11. まちの知名度が低い	12. 自分にとって馴染みがない土地	13. その他	14. わからない、特にない	無回答	
問1	性別	全体	3.7	42.9	21.1	19.1	16.2	9.2	12.0	2.4	24.5	6.2	10.1	10.0	5.2	18.6	8.8
		1. 男性	3.7	38.7	22.9	16.2	16.7	9.2	15.5	3.2	21.7	6.5	12.2	6.7	4.2	22.9	7.2
		2. 女性	3.8	48.2	20.1	22.5	16.5	9.7	9.0	1.7	27.7	6.1	8.3	13.5	6.4	15.1	6.9
問2	年齢	1. 19歳以下	7.1	28.6	35.7	21.4	7.1	7.1	7.1	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	7.1	28.6	7.1
		2. 20歳～24歳	0.0	53.3	24.4	22.2	15.6	4.4	11.1	0.0	46.7	2.2	8.9	8.9	4.4	15.6	6.7
		3. 25歳～29歳	4.0	58.0	18.0	26.0	12.0	4.0	10.0	2.0	30.0	4.0	4.0	12.0	2.0	14.0	2.0
		4. 30歳～34歳	2.6	42.1	18.4	31.6	26.3	17.1	13.2	0.0	32.9	2.6	6.6	10.5	2.6	15.8	6.6
		5. 35歳～39歳	5.7	43.4	13.2	18.9	15.1	9.4	7.5	0.0	17.0	1.9	3.8	7.5	15.1	28.3	1.9
		6. 40歳～44歳	4.9	53.7	26.8	25.6	22.0	7.3	8.5	3.7	26.8	4.9	6.1	14.6	6.1	19.5	1.2
		7. 45歳～49歳	8.6	65.7	28.6	25.7	20.0	8.6	18.6	4.3	24.3	11.4	15.7	15.7	4.3	17.1	0.0
		8. 50歳～54歳	1.7	48.3	20.7	13.8	19.0	3.4	10.3	3.4	15.5	5.2	13.8	17.2	10.3	13.8	5.2
		9. 55歳～59歳	0.9	41.6	28.3	15.9	12.4	14.2	16.8	3.5	26.5	6.2	9.7	10.6	6.2	15.9	8.0
		10. 60歳～64歳	5.4	29.3	16.3	16.3	16.3	12.0	14.1	3.3	23.9	9.8	13.0	5.4	6.5	19.6	7.6
		11. 65歳～69歳	5.5	37.4	20.9	16.5	19.8	9.9	14.3	2.2	18.7	6.6	9.9	8.8	2.2	18.7	13.2
		12. 70歳以上	1.2	27.4	13.1	6.0	6.0	6.0	6.0	2.4	19.0	10.7	16.7	3.6	1.2	27.4	19.0

●主な「その他」記入:「けいおん」関係者のマナーの悪さ／公共交通が不便(3)／中仙道がせまい・危ない(3)／地域活動が多すぎる・近所づきあいが面倒(8)／住人のマナーが悪い／治安が悪い／地域独自性を打ち出していない／など

③ 地域との付き合い (地域福祉・H29)

地域の人とどのようなお付き合いをしていますか。(3つまで選択可)

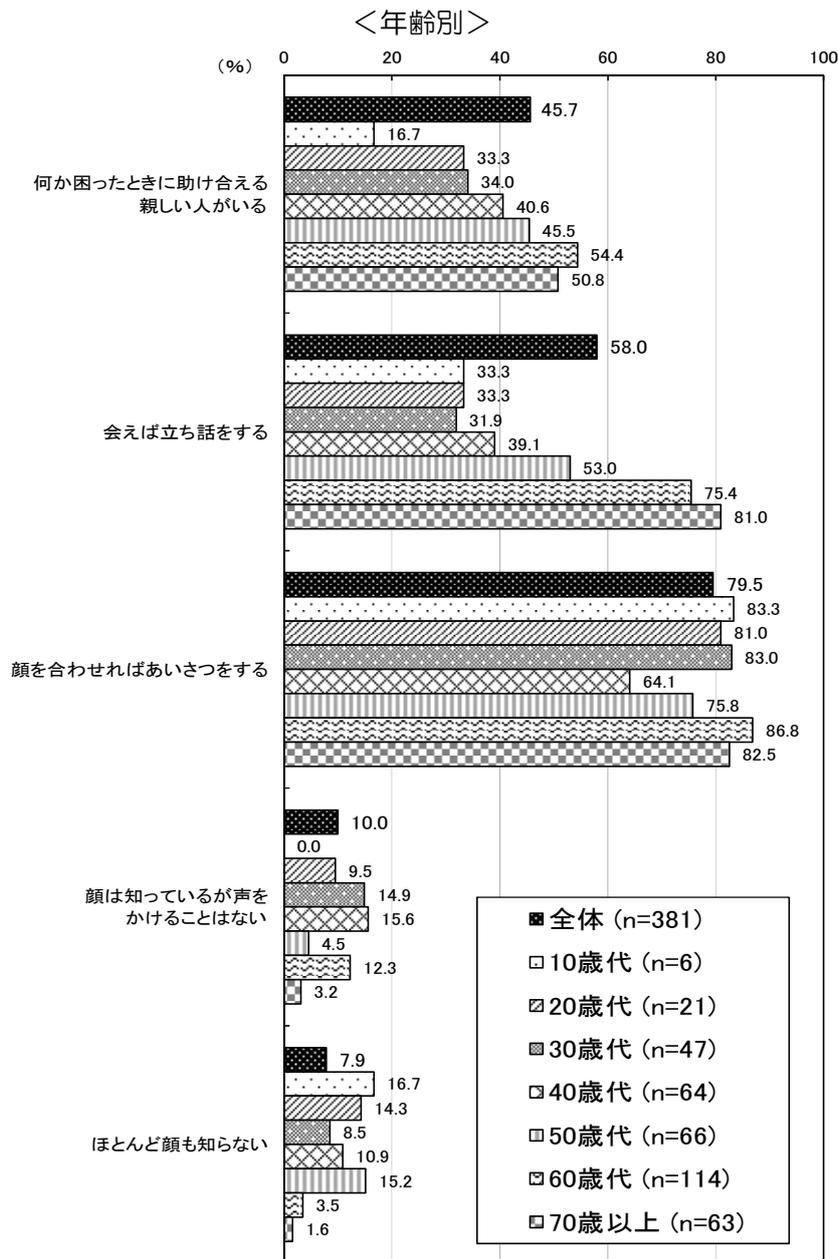
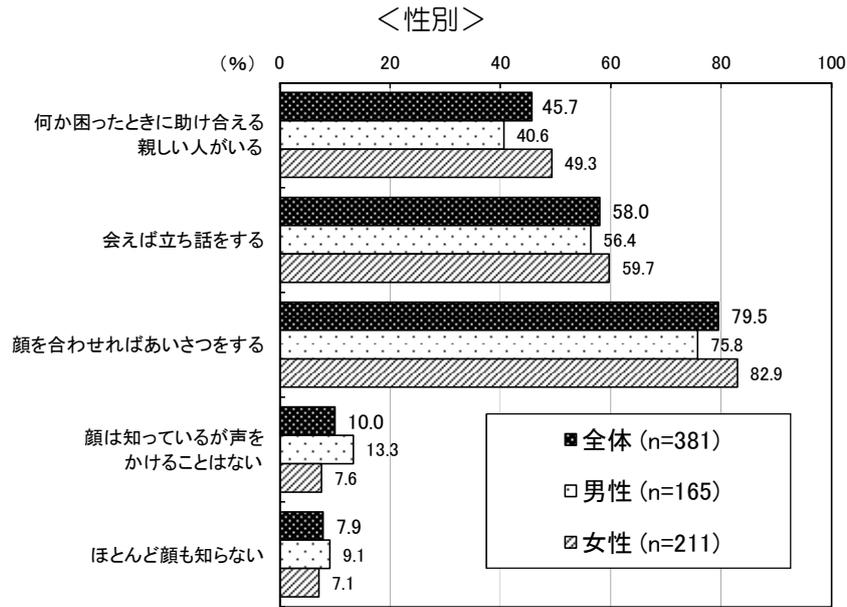
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」は 45.7%で、半数未満となっています。また、「会えば立ち話をする」は 58.0%で、最も回答率が高かったのは「顔を合わせればあいさつをする」79.5%という結果でした。一方で、「顔は知っているが声をかけることはない」10.0%、「ほとんど顔も知らない」7.9%という回答もみられました。



性別にみると、男性は「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」という回答が女性より 8.7 ポイント低く、逆に「顔は知っているが声をかけることはない」や「ほとんど顔も知らない」への回答率が女性より高くなっています。

年齢別にみると、「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」や「会えば立ち話をする」への回答率は、概ね高齢になるほど高くなり、70 歳以上では 81.0%が「会えば立ち話をする」と回答しています。一方で、40 歳代以下の年代では「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」「会えば立ち話をする」のいずれについても 30~40%の回答率となっています。

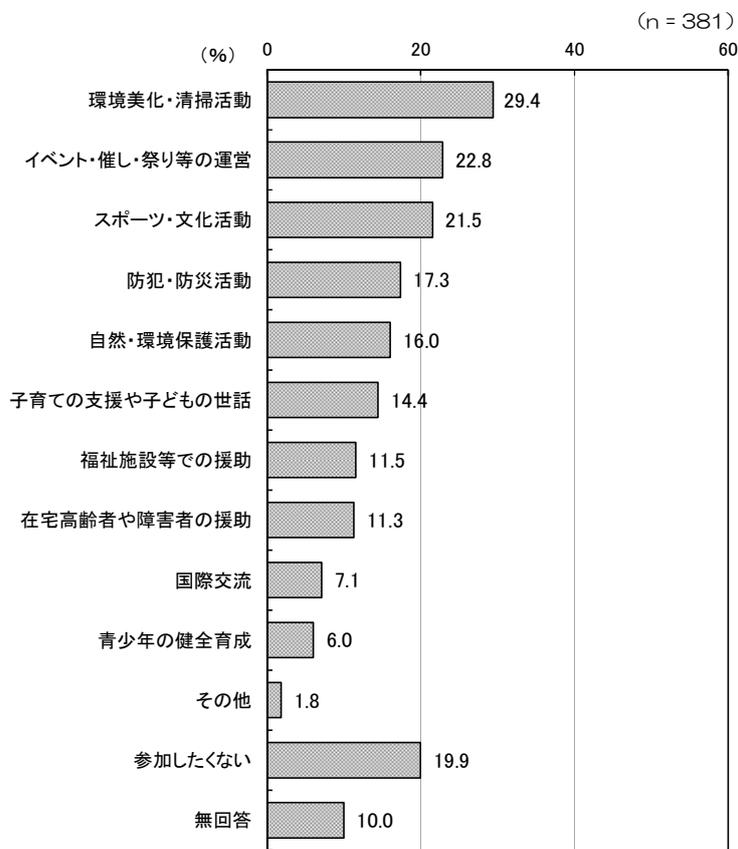
資料 I



④ 今後参加してみたい住民活動（地域福祉・H29）

今後、どのような住民活動に参加してみたいと思われますか。

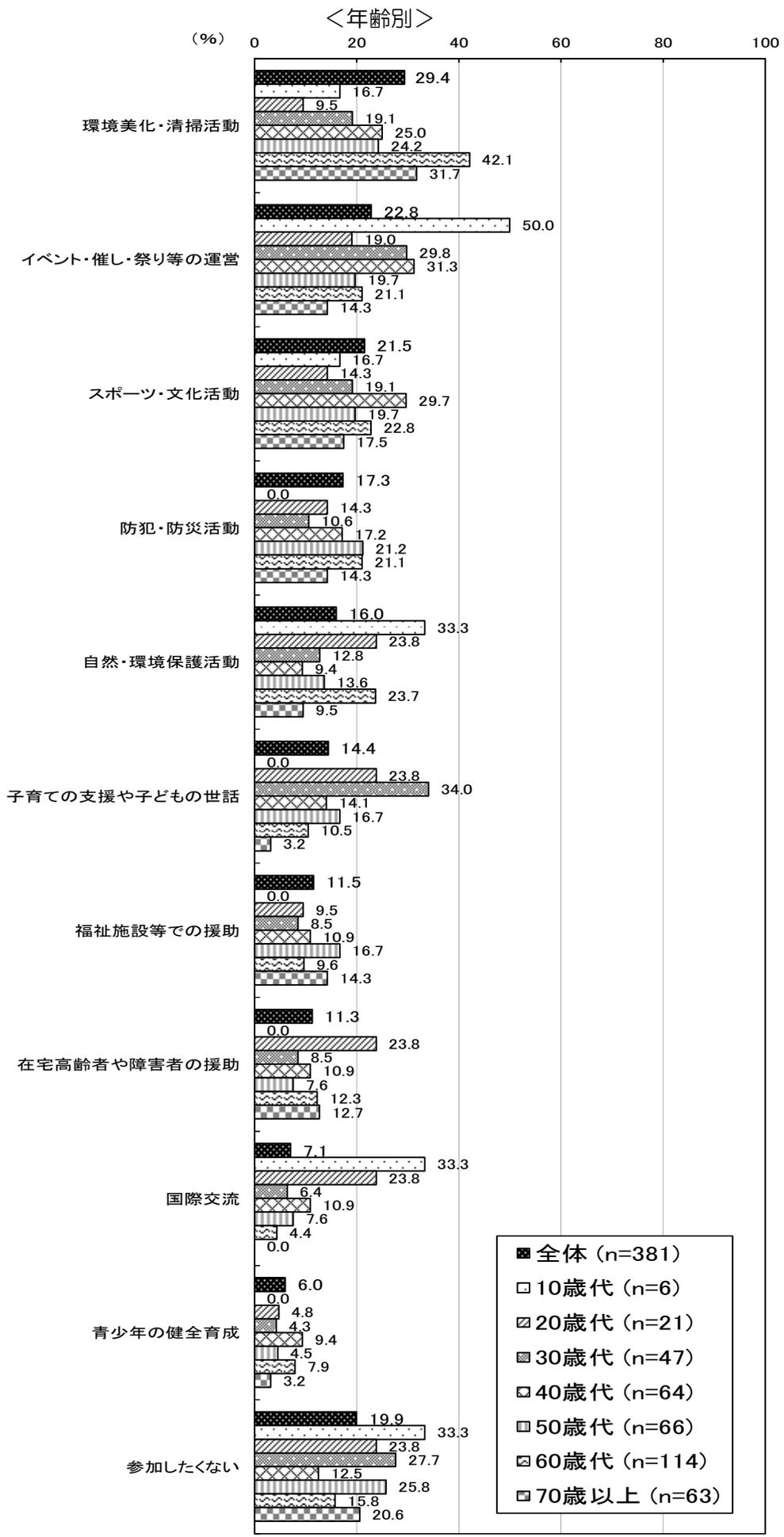
「環境美化・清掃活動」への回答率が最も高く 29.4%となっています。次いで「イベント・催し・祭りの運営」22.8%、「スポーツ・文化活動」21.5%、「防犯・防災活動」17.3%の順に高くなっています。上位項目については、前問の参加経験と同じ項目があがっていますが、ほかにも「自然・環境保護活動」や「子育ての支援や子どもの世話」「福祉施設等での援助」「在宅高齢者や障害者の援助」などの項目で、それぞれ 10%以上の方が参加してみたいと回答しており、関心が多岐にわたっていることがわかります。



※グラフ表示は回答の多い順

年齢別にみると、「環境美化・清掃活動」については 60 歳代、70 歳以上で高く、「イベント・催し・祭りの運営」は 10 歳代、40 歳代で高い結果でした。また、「子育ての支援や子どもの世話」は 20 歳代、30 歳代で高くなっています。

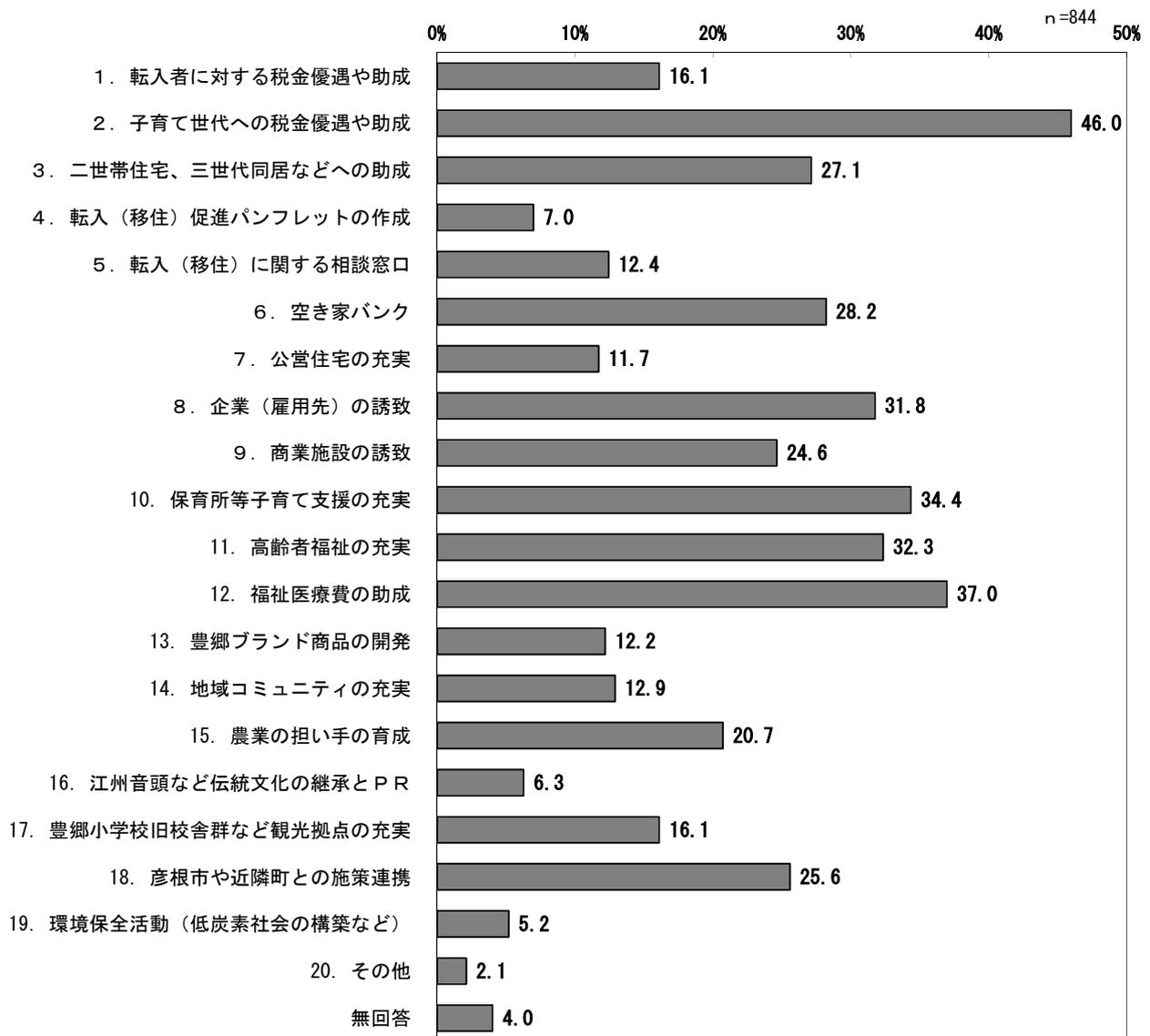
資料 I



⑤ 人口減少社会と、まちづくりについて（総合戦略・H27）

豊郷町が人口減少問題に今後対応していく場合、重要だと思う事業やサービスは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

「子育て世代への税金優遇や助成」が 46.0%で最も多く、次いで「福祉医療費の助成」が 37.0%、「保育所等子育て支援の充実」が 34.4%、「高齢者福祉の充実」が 32.3%、「企業（雇用先）の誘致」が 31.8%となっています。



●主な「その他」記入：婚活／琵琶湖と何らかのコラボ／バス、電車など交通面の充実／身の丈に合ったサービス／WEBでの情報提供／高齢者に対する教育／農業の担い手の支援／マナーの学習や挨拶がしっかりできるなど、他の学校に無いような学習を組み込み教育の充実をアピール／など